



第四章
資 料



アンケート用紙

平成30年3月10日

第28回東京都平和の日記念行事アンケート

本日の東京都平和の日記念行事について、アンケートにご協力ください。

■3月10日が東京都平和の日であることについて

- a. 知っていた b. 知らなかった

■記念行事への参加回数について

- a. 初めて b. 2～10回 c. 11～20回 d. 21回以上

■本日の記念行事について

1 第一部「記念式典」についてご感想をお聞かせください。

- a. 大変良かった b. 良かった c. 普通 d. 悪い

(ご意見: _____)

2 第二部「記念公演」についてご感想をお聞かせください。

- a. 大変良かった b. 良かった c. 普通 d. 悪い

(ご意見: _____)

3 今後の「東京都平和の日記念行事」についてお聞かせください。

- a. 「記念式典」のみでよい(その理由: _____)
b. 「記念式典」と「記念公演」を行う(その理由: _____)
c. その他(_____)

4 この行事を何でお知りになりましたか。

- a. 広報東京都 b. 東京都のホームページ c. 知人から聞いて
d. その他(_____)

■その他ご意見ご感想をお聞かせください。

[_____]

お歳: _____ 代

お住まい: _____ 区・市・町・村

ご協力ありがとうございました。

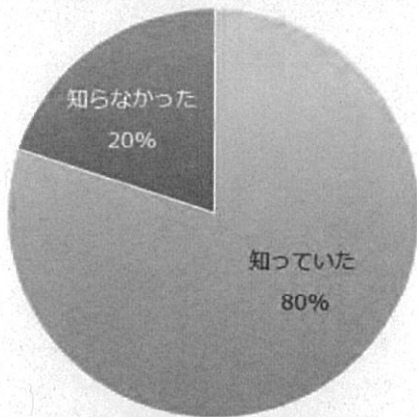
東京都

アンケート集計結果

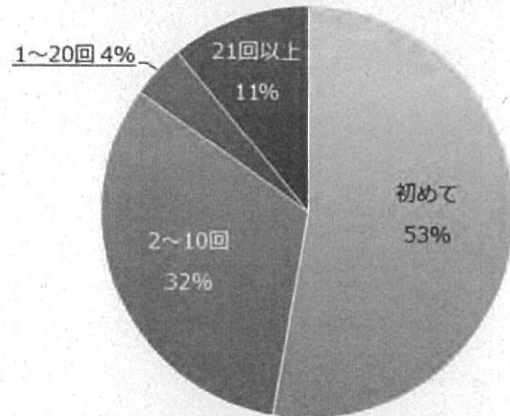


回答数：165

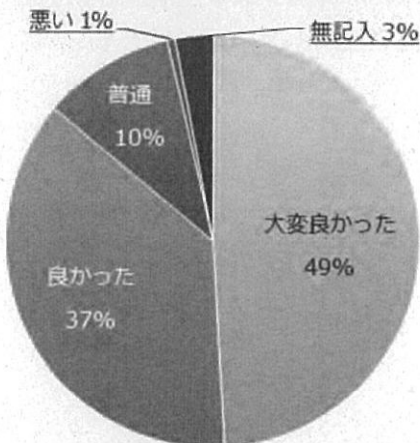
3月10日が東京都平和の日である事について



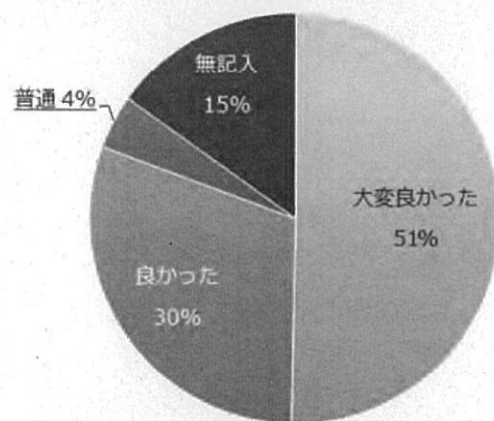
記念行事への参加回数について



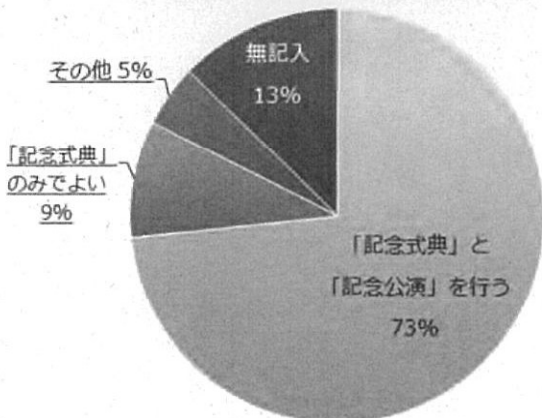
第一部「記念式典」について



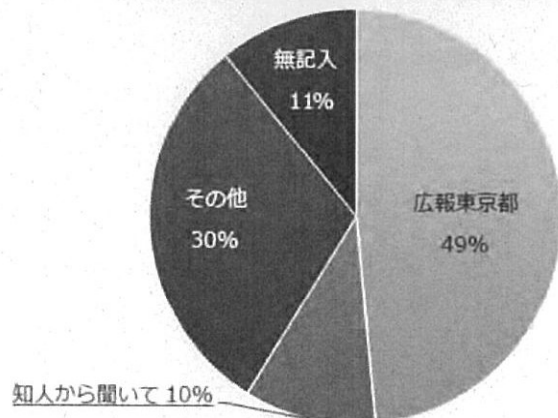
第二部「記念公演」について



今後の「東京都平和の日記念行事」について



この行事を何で知りましたか



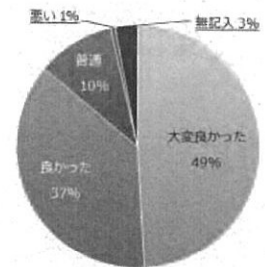
その他の回答
 ・遺族等案内状 (35件) ・新聞等 (2件)
 ・家族・友人より (6件) ・記載なし (7件)

アンケート集計結果（自由意見）

自由意見

1. 第一部「記念式典」についてご感想をお聞かせください

- ・エルサルバドル大使、被災者代表のお話心にしました。改めて平和の大切さを再認識しました。
- ・エルサルバドル大使のスピーチが素晴らしかった。(複数回答有)
- ・駐日大使閣下が日本語がとても流暢で素晴らしかった。通訳なく聞けるのは嬉しい。
- ・エルサルバドル大使の和の心が胸に沁みました。
- ・エルサルバドル大使の「和」のお話しに心を打たれた。日本人より日本のことをご存知です。
- ・外国の人に和を教えられた。
- ・エルサルバドル大使、新井純子様のご挨拶に感動しました。心に沁みました。(複数回答有)
- ・エルサルバドル大使、新井純子様のご挨拶が、とても心がこもっていて良かった。(複数回答有)
- ・エルサルバドル大使、新井さんの話は心をうたれた。
- ・新井純子さんも高齢なのにしっかりとしたおことばで疎開のころを思い涙がでました。
- ・新井純子さんの話を聞きながら涙が出ました。私にも家族がいます。絶対に戦争はイヤです。
- ・新井様の話には涙しました。
- ・今回の新井純子さんのような貴重な体験は高齢者になりますがこれからも何らかの形で続けて欲しいです。
- ・遺族代表の生々しい証言が良かった。
- ・被災者のお話はリアルで、戦争反対を更に強くしました。
- ・空襲被災者の声も聞いたのはとても良かった。(複数回答有)
- ・大空襲を経験された方のお話を聞き、戦争の悲惨さを実感した。(複数回答有)
- ・平和の日記念式典に参加できありがたいです。来年も元気で参加したいと思います。戦争のことは思い出したくないと長年思っておりましたが、この行事に参加するようになり、やっと子ども達にも伝えることが出来るようになりました。私より2才上の代表新井純子様のお話、身にしみました。エルサルバドルの大使も日本語がお上手でお話良く分かりました。和の心、かみしめています。
- ・私は東京大空襲を実際に経験していませんが、被災者の方のお話を聞き、恐ろしさを感じました。社会の歴史の授業で、東京大空襲のことを教わり、東京にも空襲があったことを初めて知りました。今回の記念式典に参加することができ、良い経験となりました。ありがとうございました。
- ・戦争体験された方が少なくなる中、その方々のお話を語り継ぐ必要はあると思うのでとても良かった。
- ・もっと戦争をお知りの方のお話聞きたかった。
- ・存命であるうちに東京大空襲を経験した方々の話を聞きたい。皆高齢者である。生の声を一つでも多く聞きたい。
- ・主催者のお話は一名で被災者のお話をもう一人増やしてほしいと思いました。小池氏には原稿を見ずお話していただければ良かったです。
- ・来賓の話は平和への答えが具体的に示されていて良かった。あいさつ者以外は舞台に上る必要なし。
- ・いつも、ご案内を頂き感謝しています。今年は被災者代表が女性の方でよかったですと思います。いつも男性なので。これからも平和を大切にすることを改めて感じつつ参加します。どうかいつまでもこの記念行事を続けて下さい。
- ・都知事のごあいさつに続き戦争は二度と。全世界が願う気持ちを実感しました。
- ・知事と議長の話が少し早くて残念でした(かみしめているうちに次に進まれてしまいます)。
- ・黙とうの時に起立の言葉の後ちょっと時間がほしいと思う。お年寄りの方は立つのも少し時間がかかります。ちょっとの気遣いで良いと思います。きてよかったです。
- ・外国人のあいさつをもっと大勢お願いすると良いと思います。
- ・都児童の挨拶もあるとよいと思います。
- ・厳粛な式典に感動した。
- ・平和を守る大切さを改めて思った。絶対に戦争はいけないこと。強い気持ちでいたい。
- ・様々な方のお気持ちを伺い、改めて平和の日を考えました。



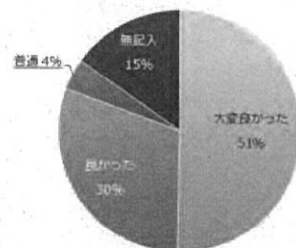
アンケート集計結果（自由意見）



- ・ 大使館の方々の出席国を発表していただき良かった。
- ・ I came to know about the tragic incident at that time which is heartbreaking. However, atrocities are going on ever today.

2. 第二部「記念公演」についてご感想をお聞かせください

- ・ J.S. バッハの aria は今回にふさわしいと感じました。
- ・ バッハ・モーツァルト…なじみの深い曲の名演奏が戦没者への何よりのレクイエムだと思います。アヴェマリアと aria に涙…でした。
- ・ 耳慣れた曲を次々と聞くことができ、特にマリアから入ったことが慰霊につながる美しい調べでした。
- ・ モーツァルトを堪能しました。バッハの曲、大変良かった。
- ・ なじみの有る曲で、心なごみ、一流の音色で貴重なひととき、ありがとうございました。
- ・ 知っている有名な曲なので良かったです。MC 良かったです。(複数回答有)
- ・ ありがとうございます。心の中で納得し曲を聞き入りました。選曲が老いた人でも下町の人でも分かるので安心して心安らぎます。
- ・ 多くの人を知っているこうしたポピュラーな曲をとりあげて下さい。犠牲となった天国の方々にとっても何よりでした。ありがとうございます。楽団の皆様の笑顔がとても美しいです。全員の合唱もいい企画です。うれしかったです。
- ・ 久しぶりに声を出して歌えたこと。
- ・ 音楽がイロハでなく、ドレミで歌える時代の幸せ。やっともどってきた平和の時に幸あれ。
- ・ 選曲が良かった。皆が聞いたことのある親しみやすい曲であった。若者とのジョイントもすばらしいと思います。
- ・ 短い時間でうまく組まれたプログラムで良かった。若手演奏も良かった。
- ・ 学生の参加がよかった。
- ・ 心がいやされました。(複数回答有)
- ・ かわいいお子さんの公演も楽しかった。(複数回答有)
- ・ ソプラノ歌手がとても良かったです。
- ・ 心なごむすばらしい演奏とソプラノでした。
- ・ 厳粛で大変よい。
- ・ 素敵な演奏でした。
- ・ すばらしい演奏と歌声でした。(複数回答有)
- ・ 楽しかったです。(複数回答有)
- ・ 都響すばらしい。
- ・ 音楽は心を動かしてくれる。
- ・ 音楽は心がなごみます。
- ・ 心にしみました。平和の大切さ、祈りが伝わった。
- ・ 何よりの平和なプレゼントです。
- ・ もう一度ききたいです。
- ・ 音楽は生活を豊かにします。日々、時間に追われるように生活していますが、心身ともにリセット出来ました。
- ・ こんな素敵な音楽を聴けるとは思わなかった。(はじめて参加)
- ・ 高齢者はコンサートに出掛けられなくて、思いがけなく楽しみました。
- ・ 普段クラシックはなかなか聞けないのでうれしいです。
- ・ もちろん音楽も良いのですが、演芸とか音楽もクラシック以外とか。
- ・ The best selection for this event + promotion of young talents.



アンケート集計結果（自由意見）

3. 今後の「東京都平和の日記念行事」についてお聞かせください

a 「記念式典」のみでよい

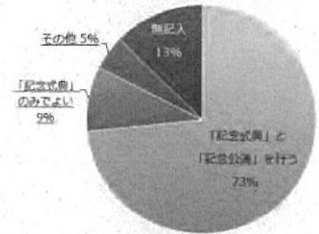
- ・ 高齢者なので短時間がよい。

b 「記念式典」と「記念公演」を行う

- ・ 記念式典はもう少し長くてもよいと思う(形式っぽく感じた)。
- ・ 音楽を楽しめることは平和のあかしであり、平和であることの大切さをしみじみ感じるができるから。
- ・ 式典だけでなく演奏公演は逝かれた方々への祈りにもなると感じます。
- ・ 式典で平和の大切さを思い記念公演で犠牲者の冥福を祈るという意味で両方するのがよい。(複数回答有)
- ・ 式のみでなく公演があることで平和を望む気持ちが更に高まると思われる。(複数回答有)
- ・ 記念公演にこそ意味がある。音楽は言葉を越えた響くものがある。芸術は国境、人種、言語を越えてしまう。ぜひ続けて下さい。
- ・ 犠牲になられた魂を思うと暗く悲痛になるが、式典だけだと心の整理がつかず。なので帰るときには音楽で気持ちを平静に、明るい平和に感謝をする方がよいと思う。
- ・ 平和を維持する為、亡くなられた人々の思いを心にとどめ、思い出を長く伝えていくのにふさわしい事と思います。
- ・ 音楽は世界共通な感動できる大きな力です。世界が平和なよう、願うきもち、共感できます。
- ・ 世界共通のことは音楽は人々の心に訴えかけ、一つになると信じています。
- ・ 音楽は共通にわかり合える。
- ・ 式典だけでは良くない。音楽は素晴らしい。
- ・ 音楽は人の心をいやします。(複数回答有)
- ・ 公演内容でも平和の尊さをアピールできるため。
- ・ これからも式典+音楽を！セレモニーのあとの音楽はとて素晴らしい。若い人を交えてとて素晴らしい企画と思う。大事に育てて下さい。平和であることの何と素晴らしいことだろう。心が洗われました。
- ・ 両方あることで更に平和の日が心に残りました。
- ・ 式典のみより記念公演があった方がよい。(複数回答)
- ・ やはり、式典だけでは緊張。心やわらぐ時間も必要。
- ・ 公演もあることにより心がなごみます(安らぎます)。(複数回答有)
- ・ 平和をかみしめる時間があってよい。
- ・ 特に子どもさんの出席楽しみです。
- ・ 遺族と共に参加し、平和を祈りたい。
- ・ 心を一つにできる。涙し、笑うことで。
- ・ 一般の方のほとんどが最後まで参加されていた。
- ・ 足をはこんだのだから式典だけではもったいない。(複数回答)
- ・ 折角の参加、外出です。
- ・ 公演を楽しみにしているから。(複数回答有)
- ・ 式典だけでしたら出席はしないかもしれません。
- ・ 生演奏が聞けますから。
- ・ It is important to commemorate this day.
- ・ Because both ceremonies were excellent.
- ・ Music accompanies both the joy and the pain of the soul.

c その他

- ・ どちらでもいい。



アンケート集計結果（自由意見）



■その他意見、感想

【具体的なご意見】

- ・ 哀悼の式典と現在、未来への希望を抱かせる公演の組み合わせがプログラム全体を通して美しいと思いました。最後に唱歌をうたうのもすばらしいと感じました。
- ・ 式典を通じて、平和・調和・多様性の大切さを再認識しました。未来を荷う子供達にも聞いて欲しいお話やコンサートでした。こうした機会を与えていただき心より感謝いたします。
- ・ 初めて参加させていただきました。苦しみの中に逝った多くの方々の上に今があると改めて感じ、また都響の演奏に新たな光を得たと思います。ありがとうございました。
- ・ 空襲の体験者がすくなくなり、段々記憶からうすれ、はなしても実感がわかないようです。2度と戦争がおきないことを祈ります。
- ・ 「悲惨な戦争」(The Cruel War)は、どんなことがあっても絶対反対です。改めて、残された者が「風化」してはならないことを思いました。次の世代、次の次の世代—子供達、孫達に語り継ぐ必要があります。これは国家と国民の義務であります。毎年参加させて頂きたいと思えます。3月11日は東北大震災と2日続けて日本人にとって「悲しい日」が続いてしまった。
- ・ 戦争、空襲の悲惨さを、絶対に忘れ去ってはいけません。風化のきざしが心配です。
- ・ 空襲を知らない世代が多くなり、戦争のあわれさを知らしめる為、続けるべきである。
- ・ 平和の尊さを伝えて行く地味な努力が大切と思う。
- ・ 平和の大切さについてもっともっと広めてほしい。
- ・ 広島、長崎だけの話ではないことを知りました。
- ・ 戦争は悪です。平和を願う日々です。
- ・ 兄は戦死しました。改めて平和の大切さを感じております。
- ・ S20.5.25空襲で家が失われました。いろいろと思い出されます。
- ・ 遠く離れた土地で亡き父をしのび続けて生きて参りました。
- ・ 戦前生まれの私は胸の痛む思い。戦争がなぜ早く終結しなかったのか。多くの命を亡くし無念に小さい時から思っていました。他国での悲劇を心痛んでいます。
- ・ 毎年参加させて頂きあの戦場のきびしい感じ再び感じました。もうこの様な戦争がおきない事を念じております。
- ・ 一日でも東京大空襲の事を思い出し祈る事が大切。日本人、いや、東京の人が今日何人思い出している事でしょう？
- ・ 初めて参加致しましたが、気(心)が引きしまる思いがしました。(空襲を知らない世代として)
- ・ 毎年ありがとうございます。母(93歳)と毎年参加させて頂いております。母は深川で空襲を経験し、生き残った一人です。また来年もよろしくお願ひ致します。
- ・ 平和記念行事のご準備色々大変なことが多かったと思いますが、これからも続けられますようお願いしています。本日はありがとうございました。
- ・ 心をこめてご準備いただき、ありがとうございます。
- ・ これからも行事に参加させて頂きたいと思えます。(複数回答有)
- ・ 初めて参加しました。これからも機会があればまた参加したいと思えます。
- ・ とても楽しく意義のある会に参加でき、よい思い出になりました。
- ・ 良かった。
- ・ 2度と戦争のない世の中にと望む為に祝日(記念日)となる様になるとよい。
- ・ 2020に向けても頑張っ続けて下さい。(30回)
- ・ I hope one day there would be no war.



アンケート集計結果（自由意見）

【座席配置について】

- ・今年が席番が決められていました。ご配慮ありがとうございました。皆で合唱。
- ・5年ぶりに当たり、今年は光栄です。来年も当選して出席できればと思ってます。今迄にないやり方で席も決まっています、とても良い方法と思います。
- ・今回の席順について良かった。(複数回答有)
- ・記念行事に参加すると、あの当日の惨事・行動が鮮明に思い出されます。今回からの座席指定は良いと思います。椅子のクッションが無いので長時間の使用はつらい。
- ・1時間前に早く行きましたが、前列でしたが隅の方でした。中央から座らせて下さいませ!
- ・席が前だと見にくい。
- ・今回指定席では式典は良いが、コンサートの時は席を移らせて後方に並びたいと思います。
- ・空襲時の町別は無理でしょうか。(席)

【バスについて】

- ・戦争の遺族が高齢となり、都がバスで都庁まで送っていただけるのはありがたい。(複数回答有)
- ・慰霊堂から都庁までバスを出して頂いて助かっていました。そして妹とバスに乗って来るのが楽しみでもありました。今までありがとうございました。
- ・バスにのせて頂いて大変よかったですのですが、それからの説明がしてほしかった。はがきでの説明はあったと思いますが何せ年寄りの為説明が欲しかったです。
- ・両国からのバスを利用させていただきありがとうございます。感謝しております。都庁着後、バスの中で待たされましたが、添乗員の方からはなんら案内もなく、着場所、ランチ案内等、段取りも把握されてなかったようです。(複数回答有)

【資料展、花壇について】

- ・体験など語る人が少なくなる昨今、東京大空襲等の映像も有ると一層過去の風化を防ぐことになるのでは。
- ・終戦してからだいぶ経ち、体験者も年々減ってきているのでこのことを忘れないために、式典は続け、終戦当時の写真も展示して風化させないために伝えて行ってほしい。若い学生の方にも知って欲しい。
- ・会場内に東京空襲の資料を少しでも多く展示して欲しい。
- ・初めて参加しました。犠牲者の方々に多くの方々から黙とうをささげ、展示を見て当時のむごさを改めて感じました。叔母は墨田区本所で大空襲を経験し、生前たくさん話をきいていましたので、その話と重なりました。参加して良かったです。
- ・東京空襲日誌、興味深くみました。出来ましたら被害家屋、死者の統計数を出していただけたらと思いました。
- ・平和記念碑のパンフレットが全ての送付資料に同封され無駄である。
- ・横網町公園の花壇のデザインをしおりにして、この日に土産として配ってもと思う。

【その他】

- ・携帯電話の音があちらこちらで気になった。
- ・案内して下さった職員の方々が丁寧で親切でした。残響の少ない会場での演奏はご苦労だったと思いました。バーバーのアダージョを聴きたかったです。
- ・手話通訳の方も更に素晴らしかった。あんなに美しく心のこもった手話は見事でした。

東京都平和の日条例

平成二年七月二十日
東京都条例第九十号

東京は、今や、世界の経済社会の発展を支える大都市としての地位を占めるに至った。これは、東京の地に住み、働いてきた人々の努力の賜物である。

しかし、東京の歴史には、幾多の惨禍が刻まれている。特に、多数の都民が犠牲となった第二次世界大戦の悲惨を我々は忘れることができない。

平和は、都民すべての願いである。

東京都は、平和国家日本の首都として、世界の都市と連携し、文化交流等の推進に努め、人々の相互理解に立脚した国際秩序の形成と恒久平和の実現に貢献する責務を深く認識し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、ここに、東京都平和の日を定める。

(平和の日)

第一条 東京都平和の日は、三月十日とする。

(記念行事)

第二条 東京都は、東京都平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

(委任)

第三条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

Tokyo Metropolitan Peace Day Ordinance

Tokyo has now become one of the major cities to support the development of the world economy and society. This result can be attributed to its residents, who have lived and worked diligently in Tokyo. However, Tokyo recorded many disasters in its history. Of these, we will never be able to forget tragedies experienced during World War II when many Tokyo residents fell victim.

Peace is the very wish of all of Tokyo's residents.

The Metropolis of Tokyo, as the capital of peaceful nation of Japan, has decided to promote cultural exchanges in cooperation with the cities of the world. Tokyo recognizes responsibility for devoting itself to forming an international order based on mutual understanding and achieving eternal peace. Tokyo takes an oath never to repeat the horrors of war. Therefore, the Metropolis of Tokyo does hereby enact the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(The Peace Day)

Article 1 The Tokyo Metropolitan Peace Day shall be on March 10th.

(Commemorative events)

Article 2 In order to confirm the significance of peace and to promote peace-consciousness, the Metropolis of Tokyo will carry out commemorative events on the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(Delegation)

Article 3 Necessary matters related to the enforcement of this ordinance shall be fixed by regulation.

Supplementary provision

This ordinance shall come into force from the day of its promulgation.

Promulgated July 20, 1990

Tokyo Metropolitan Ordinance No.90

東京都民平和アピール

一九四五年三月十日、五十年前の今日、東京は空襲によって、いたるところ焼け野原と化し、一夜にして十万人のかけがえのない尊い命が失われま

した。同じく五十年前、広島と長崎の原子爆弾は、人類がまだかつて知らなかつた悲劇を地上に現出させました。

いかなる哀悼の言葉も意味を失ってしまふほど非情かつ残酷なもの、それが戦争のもたらすあらゆる惨禍であり災害であります。

そして半世紀がたちました。戦争を知らない人々が、都民の多数を占める時代がきました。東京の姿は一変しました。廃墟だったまちは、活動力にみちた大都市に変貌しました。それは、日本が平和のもとにあつたからこそ実現できたものでした。

世界の相互依存関係がかつてないほど緊密になり、互いの協力がますます必要とされる現在、私たちは世界全体の平和なくして、幸せで安全な暮らしを営むことはできません。

いま世界は、激動の中にあつて、大きな歴史の転換の時代を迎えています。民族や宗教の対立などに起因する悲惨な地域紛争、飢餓と貧困、難民と被災者、地球環境の破壊と悪化をはじめ、人々の穏やかで満ち足りた生活をはばむ要因が、次から次に生じています。不信と対立を克服し、信頼と協調による新たな国際秩序を模索することは、地球全体にとつて緊急な課題であり続けています。国、民族、文化の違いをこえた取り組みが、今ほど求められている時はありません。

平和は、何ものにもまさつてすべての基礎をなす条件です。日本国憲法が基本理念とする恒久の平和は、私たちすべての願いであり、人類共通の目標です。

私たちは、軍縮と核兵器の廃絶を機会あることに強く訴え、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓います。日々の生活において、平和を脅かす問題に、毅然として立ち向かい、忍耐よく取り組みことを決意します。

一 私たちは、次代を担う子どもたちに、戦争の悲惨さと、それを防止することの大切さを、東京空襲の体験などとともに語り伝えます。

一 私たちは、共に地上に生きるすべての人の人権を尊重し、差別を排し、思いやりと愛情をもつて、誇りに足る地域社会をつくります。

一 私たちは、日々のくらしを注意深く見つめ、豊かな水と緑の地球環境を守ります。

一 私たちは、地球社会の一員として、世界の人々と交流し、相互の信頼を深め、協力連帯して、人類の福祉の向上に努めます。

一 私たちは、過去の歴史をかえりみて、ともに手を携えて平和な世界をつくり、相ついでやつて来る新しい世代に引き継いでゆきます。

第五回東京都平和の日記念式典にあたり、私たちは、参加者の総意としてこのアピールを採択し、誓いも新たに、平和を心から願う気持ちと決意を、全世界の人々に訴えます。

一九九五年三月十日 東京都

An Appeal for Peace by the Citizens of Tokyo

Fifty years ago today, on March 10th 1945 Tokyo was reduced to ashes and a hundred thousand precious lives were lost overnight due to a large-scale air raid.

The same year, the dropping of atomic bombs in Hiroshima and Nagasaki revealed a tragedy never previously known to human beings.

The nature of various horrors and disasters brought forth by war is so cruel that no words of condolence are enough.

Half a century has passed since then. Most of today's citizens of Tokyo don't know the war. The city of Tokyo underwent a tremendous change. Once in ruins, Tokyo is now a metropolis full of energy and spirits. This became possible only because Japan has been at peace for the past fifty years.

Today, when global interdependence is stronger than ever and cooperation increasingly necessary, we cannot seek a safe and happy life without world peace.

In the midst of turbulence, the world today is approaching an era of great change in history. Conflicts caused by antagonisms between different ethnic groups and religions, hunger and poverty, refugees and victims, deterioration and destruction of the environment—these are only a few of many factors in today's world which endanger people's calm and fulfilling lives. To overcome distrust and antagonism and to seek a new international order is an urgent agenda of the entire world. Never before was it necessary to deal with this agenda regardless of differences in nationality, ethnic background, and culture.

Peace is a basic requirement, more important than anything else. Lasting peace, the fundamental principle of the Constitution of Japan, is the wish of everyone of us and is also a common goal for all human beings.

We pledge to take every opportunity to advocate disarmament and the abolishment of nuclear weapons, and to never repeat the horrors of war. We are resolved to deal with problems which endanger peace in everyday life and to face them resolutely and patiently.

- We will tell our children, who are responsible for the next generation of the horrors of war and the importance of preventing it, along with the memories of the large-scale air raid of Tokyo.

- We will respect the human rights of all people living on the earth, fight against discrimination, and create, with much love and compassion, a community which we can be proud of.

- We will review our daily lives in order to preserve the world environment with rich water resources and greenery.

- We, as members of the global community, will develop amicable relationships with other people of the world, strengthen the mutual trust, and, with cooperation and solidarity, make efforts to enhance the well beings of mankind.

- We will reflect upon our past history and create a peaceful world for the next generation to cherish.

On the occasion of the 5th Peace Day Commemoration of Tokyo, we adopt this appeal by the consensus of all present, thereby conveying to the world the renewal of our sincere resolution to achieve peace.

March 10th, 1995